

博報堂生活総合研究所

「家族30年変化」調査結果を発表 第二弾「夫婦の家事・育児分担」編

夫の家事参加意識は30年で最高でも実態はまだまだ妻に偏り

「夫も家事分担すべき」と答えた夫 1988年 38.0%→2018年 81.7%
「食事のしたくをすること:よくある」夫13.7%・妻97.1% など

博報堂生活総合研究所は1988年から10年毎に、サラリーマン世帯の夫婦を対象にアンケート調査「家族調査」を行ってきました(1988年・1998年・2008年・2018年の4時点で実施)。30年間におよぶ時系列分析であることに加え、夫と妻それぞれに同じ質問を投げかけて反応のギャップをみるという特徴をもった調査です。

6月11日の第一弾に引き続き、今回の発表では第二弾「夫婦の家事・育児分担」編として、家庭内の家事・育児分担の状況や意識などの変化に焦点を当て、ポイントとなった調査結果を中心にお伝えいたします。

なお、本調査は博報堂生活総合研究所で進めている研究「家族30年変化」の一環です。本調査を含む各種研究の成果については、サマーセミナー2018「家族30年変化」として、研究発表イベントやレポートなどで発表してまいります。

【調査概要】 調査地域：首都40Km圏 調査対象：妻の年齢が20～59歳の夫婦が同居する世帯 630世帯(夫630人・妻630人 合計1,260人)
調査手法：訪問留置自記入法 調査時期：2018年2月7日～3月12日
※1988年・1998年・2008年を含む、調査概要の詳細はP.6参照

「家族30年変化」調査結果のポイント

夫婦の家事・育児参加意識

夫の家事・育児参加の意識は30年間で最高に

- ・「夫も家事を分担すべき」との質問に「そう思う」と答えた夫は過去最高に(1988年38.0%→2018年81.7%)。
- ・「夫も育児を分担すべき」との質問に「そう思う」と答えた夫は過去最高に(1988年45.8%→2018年88.9%)。
- ・30年かけて、妻の意識に夫の意識が追いついた格好に(「夫も家事を分担すべき」妻の回答2018年85.1%)。

夫婦の家事参加実態

夫の家事参加実態は30年で高まるも、まだまだ妻に及ばず

- ・実際の家事参加では「食事のしたく」「洗濯」「部屋のそうじ」などの項目で、夫の参加状況は過去最高に(「食事のしたく」をすることがよくある 夫1988年3.7%→2018年13.7%など)。
- ・妻の家事参加との比較では、まだまだ妻に偏り(「食事のしたく」をすることがよくある 妻2018年97.1%など)。

夫婦の役割分担
(2018年のみ調査)

理想は「平等」「できる方がやる」が過半数、現実には旧来型分業が7割

- ・夫婦の役割分担の理想は、夫・妻とも「平等に分担」「その時できる方がやる」が過半数に。
- ・しかし現実の役割分担は、「妻が家庭内、夫が家庭外の役割を担う」が7割にのぼる。
- ・現状の役割分担への満足度は、夫が妻を上回る(夫80.2%・妻68.3%)。

仕事と家庭の両立意識
(2018年のみ調査)

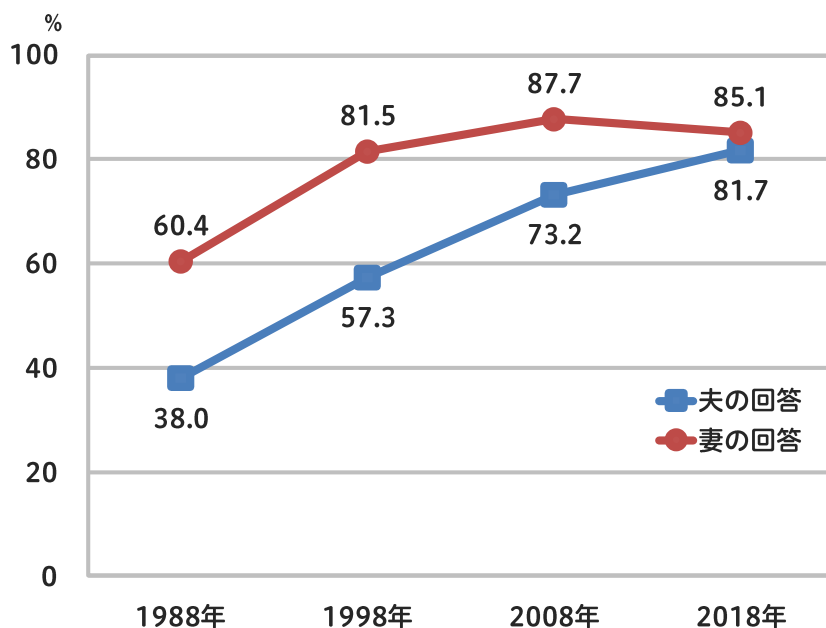
夫の4人に1人が「仕事を減らして家事・育児に関わりたい」

- ・夫の4人に1人、妻の5人に1人が「外の仕事の負担を減らして、もっと家事・育児をしたい」。
- ・一方で夫の5人に1人、妻の3人に1人が「仕事と家庭の両立のため、やりたい仕事を断念しているところがある」との回答も。

- ・「夫も家事を分担すべき」との質問に「そう思う」と答えた夫は過去最高に(1988年38.0%→2018年81.7%)。
- ・「夫も育児を分担すべき」との質問に「そう思う」と答えた夫は過去最高に(1988年45.8%→2018年88.9%)。
- ・30年かけて、妻の意識が夫の意識が追いついた格好に(「夫も家事を分担すべき」妻の回答2018年85.1%)。

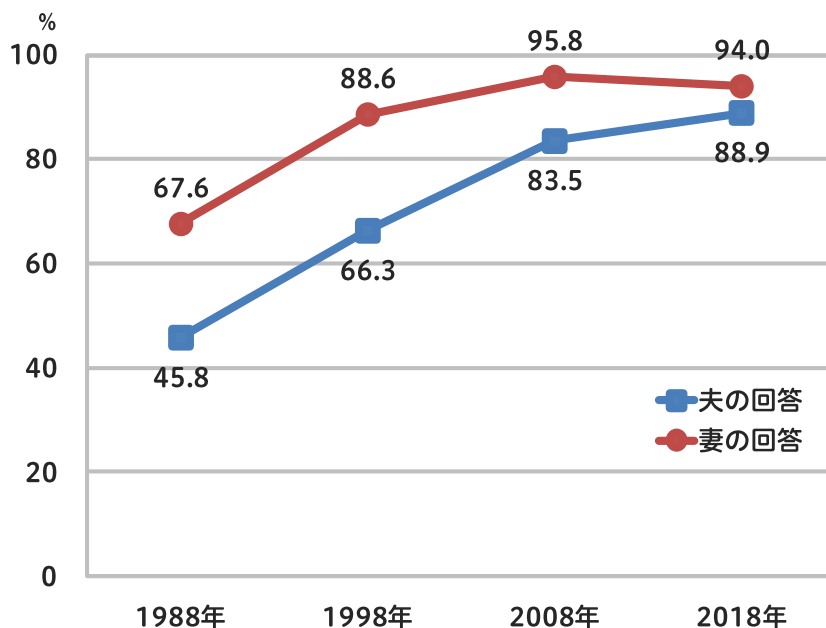
■夫婦の家事参加意識

Q 夫も家事を分担する方がよいと思う
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



■夫婦の育児参加意識

Q 夫も育児を分担する方がよいと思う
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



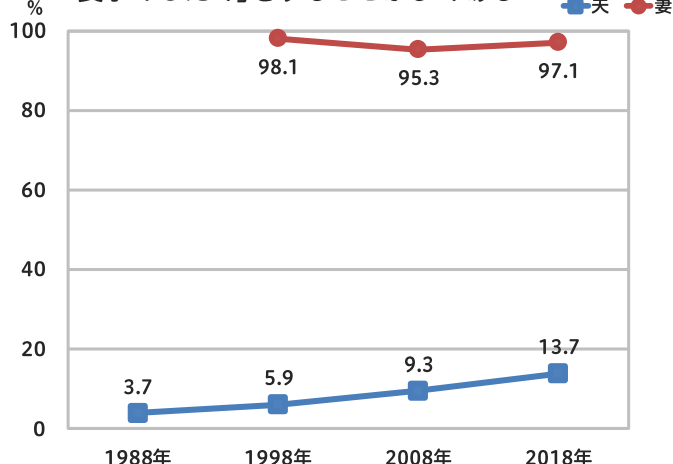
- ・実際の家事参加では「食事のしたく」「洗濯」「部屋のそうじ」などの項目で、夫の参加状況は過去最高に（「食事のしたく」をすることがよくある 夫1988年3.7%→2018年13.7%など）。
- ・妻の家事参加との比較では、まだまだ妻に偏り（「食事のしたく」をすることがよくある 妻2018年97.1%など）。

■夫婦の家事参加実態

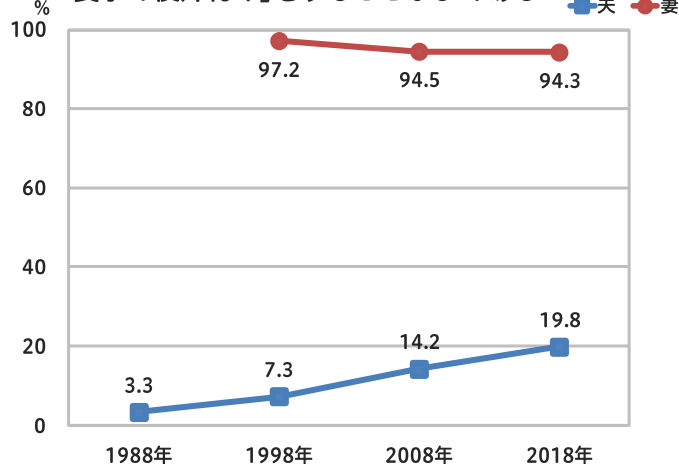


日常生活の事柄について、ご主人、奥様は普段どの程度参加していらっしゃいますか
（よくある／時々ある／たまにある／ない）※グラフでは「よくある」のデータを掲載 ※妻のみ回答(630人)

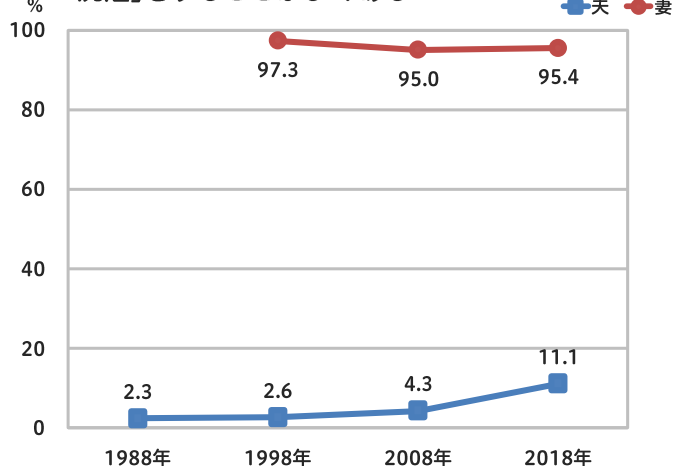
「食事のしたく」をすることがよくある



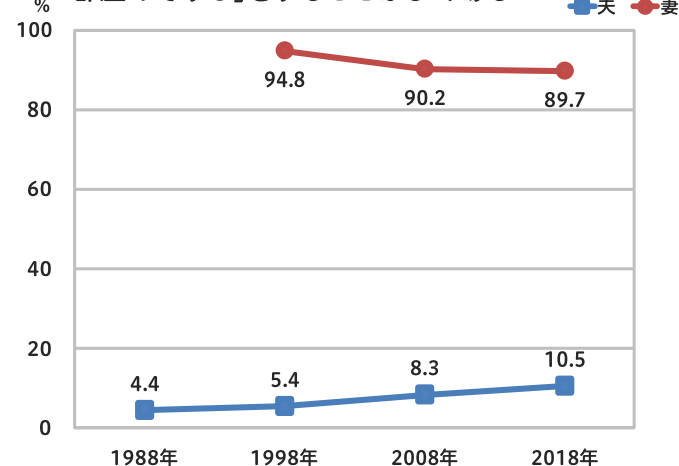
「食事の後片付け」をすることがよくある



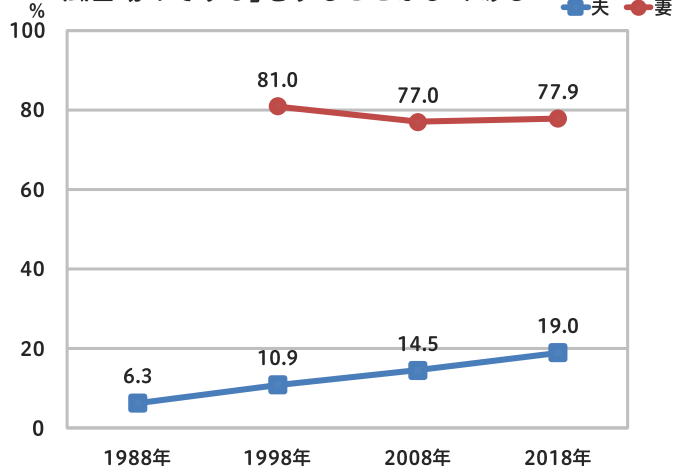
「洗濯」をすることがよくある



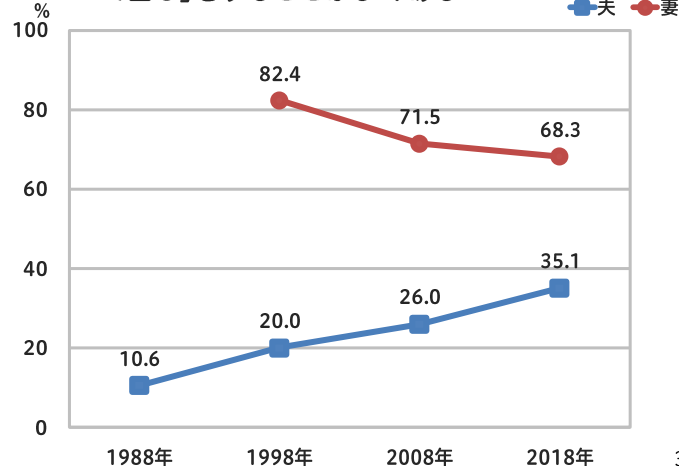
「部屋のそうじ」をすることがよくある



「風呂場のそうじ」をすることがよくある



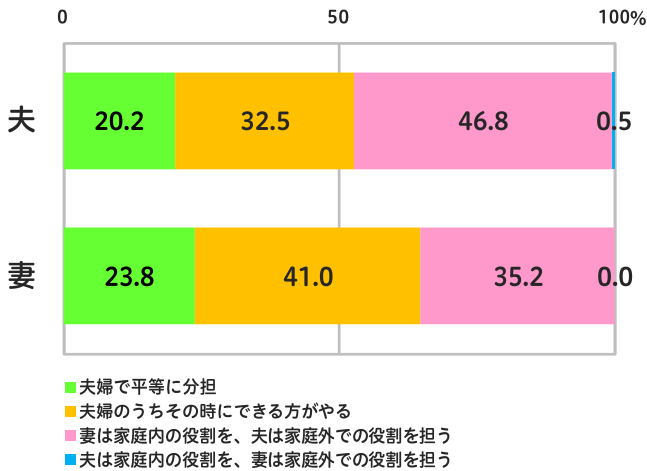
「ゴミ出し」をすることがよくある



- 夫婦の役割分担の理想は、夫・妻とも「平等に分担」「その時できる方がやる」が過半数に。
- しかし現実の役割分担は、「妻が家庭内、夫が家庭外の役割を担う」が7割にのぼる。
- 現状の役割分担への満足度は、夫が妻を上回る(夫80.2% ⇄ 妻68.3%)。

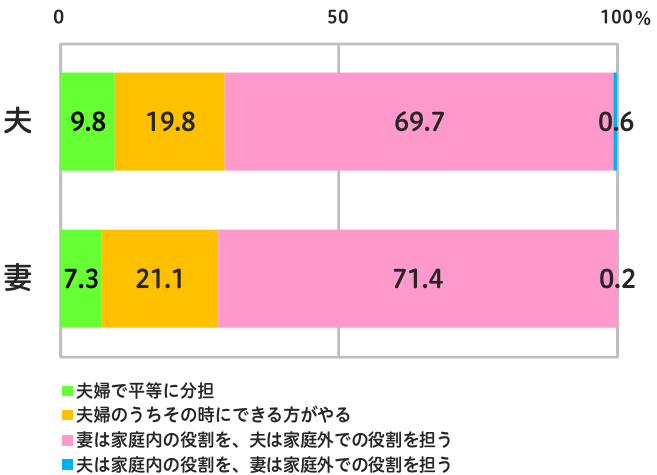
■理想の役割分担

Q 家庭における夫婦の役割について、
あなた自身の理想に近いものはどれでしょうか
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



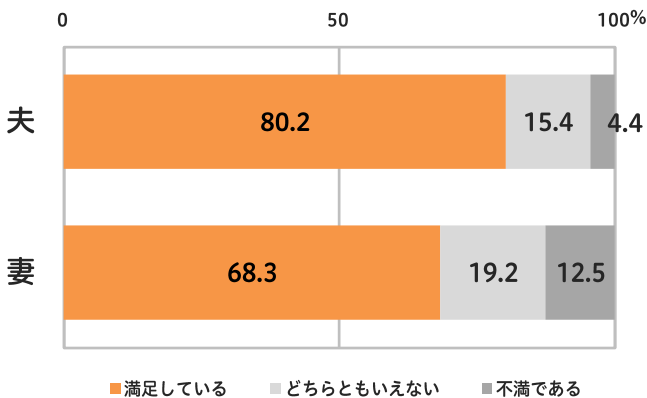
■現実の役割分担

Q 家庭における夫婦の役割について、
あなたの家庭の現実に近いものはどれでしょうか
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



■現状の役割分担への満足度

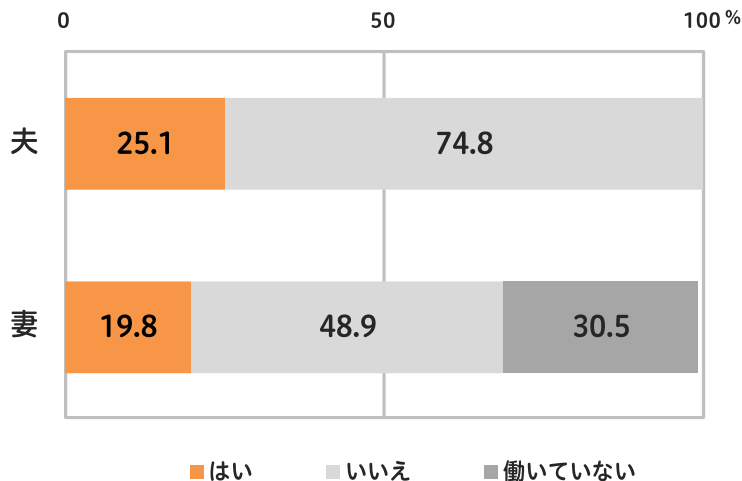
Q 日常生活の役割分担について、
あなたは現在どの程度満足していますか
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



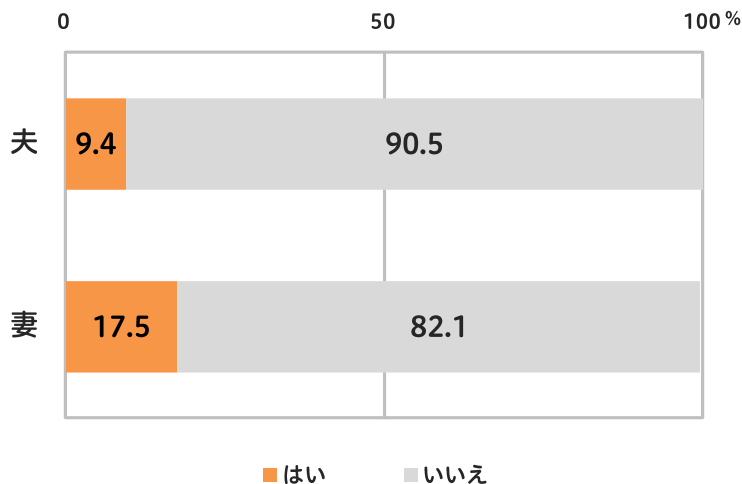
- ・夫の4人に1人、妻の5人に1人が「外の仕事の負担を減らして、もっと家事・育児をしたい」。
- ・一方で夫の5人に1人、妻の3人に1人が「仕事と家庭の両立のため、やりたい仕事を断念しているところがある」との回答も。

■仕事と家庭の両立意識

Q 外の仕事の負担を減らして、もっと家事や育児をやりたい（はい／いいえ／働いていない）
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



Q 家事や育児の負担を減らして、もっと外の仕事をやりたい（はい／いいえ）
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



Q 仕事と家庭の両立のために、自分はやりたい仕事を断念しているところがある（はい／いいえ）
※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)



「家族調査」調査概要

●調査地域：首都40Km圏

●調査対象：妻の年齢が20～59歳の夫婦が同居する世帯

対象条件：①②の両方に該当する世帯

①夫がサラリーマンであること ②夫と妻が同居していること(子供の有無は問わない)

●調査世帯数：630世帯(2018年：夫630人・妻630人 合計1,260人)

	妻20～29歳	妻30～39歳	妻40～49歳	妻50～59歳	合計
2018年	41	184	238	167	630
2008年	57	208	173	162	600
1998年	146	323	422	309	1,200
1988年	149	446	366	223	1,185

※1988年の合計には、妻の年齢が不明な1世帯を含む

●調査手法：訪問留置自記入法

※調査票は2種類

・妻票…家族や家庭について妻のみが記入する「世帯票」と、夫婦それぞれが記入する「個人票」の2部構成

・夫票…夫婦それぞれが記入する「個人票」のみ

●調査時期：2018年2月 7日～3月12日

2008年6月12日～7月 7日

1998年1月 8日～2月 2日

1988年8月 3日～8月22日

●企画分析：博報堂生活総合研究所

●実施集計：株式会社東京サーベイ・リサーチ